

CLAIR トピックス

——最近のクレアの動きを短くまとめて紹介します



シドニー事務所

豪州最大級のポップカルチャーの祭典「SMASH! 2018」に出展!

7月14日と15日の2日間、マンガやアニメなどポップカルチャーを紹介する豪州最大級のイベント SMASH! 2018 (Sydney Manga and Anime Show) が、シドニーのインターナショナル・コンベンション・センターにおいて開催され、過去最高となる約2万2,000人が来場しました。

日本発のアニメやマンガ、ゲーム、コスプレなどは豪州にも愛好家が多く、日豪の文化交流を深めるうえで重要な分野のひとつです。

本イベントは2007年に初めて開催されて以来、年を追うごとに規模を拡大し、出展者数および来場者数ともに増加しています。今年はシドニー中心部のダーリング・ハーバーが会場となり、会場周辺はアニメやテレビゲームのキャラクターなどのコスプレをした人であふれていました。

巨大な会場は、愛好家や事業者によるブース、アニメなどの展示物、車体をアニメのキャラクターなどで装飾した「痛車 (いたしゃ)」などが並び、多くの来場者で埋め尽くされました。

本イベントでは多彩なプログラムが用意され、この日のために日本から来豪した有名なアニメ関係者などスペシャルゲストによるステージをはじめ、話題アニメの上映や、カラオケ大会などが実施されました。コスプレイヤーたちはステージで音楽やダンスを披露し、中でも、毎年夏に、名古屋市で開催される「世界コスプレサミット」への出場権をかけてコスチュームとパフォーマンスを競うオーストラリア予選大会は注目を集め、会場は盛り上がりました。

シドニー事務所も本イベントにブース出展し、マンガやアニメを観光資源の一つとして地域活性化を図る地方自治体のパンフレットなどを配りながらPRに努めました。職員がアニメのキャラクターに扮したり、武士の甲冑を着用して来場者の注目を集め、写真撮影にも応じつつ多くの来場者に日本各地を紹介することができました。



ロンドン事務所

カーディフ市でラグビーワールドカップ2019 関連自治体向けセミナーを開催

6月15日、ラグビーワールドカップ (RWC) 2015年大会の開催都市の一つであるカーディフ市とウェールズ政府の職員を講師に招き、開催都市の役割やワールドカップを通じた誘客プロモーションを学ぶための関連自治体向けセミナーを開催しました。日本からは札幌市や横浜市などの2019年大会関連自治体の職員などが参加しました。

講師からは、2015年大会の成功の要因として、政府と市が組織の垣根を越えて「Team Wales」として大会誘致から運営まで一丸となって取り組んだことや、一部の地域ではなく国を挙げたお祭りとしてさまざまな関係者と十分なコミュニケーションを図りながら広く一般市民の関心を集めたことなどが挙げられました。

また、大会開催は地元経済の発展につながるという点が強調され、ラグビーファンのみならず、一般市民にも利益をもたらすような活動を継続的に、開催機運を高めていくことの大切さが語られました。

大会開催の成果として、カーディフ市の来場者数が例年より4万人増加したことや、国際規模のイベントを成功させたことにより海外からのウェールズ・カーディフ市のブランドイメージが大いに高まったことなどが紹介され、参加者の関心が寄せられていました。



セミナーの様子



2015年大会開催時にカーディフ城に設置されたインスタレーションアート「Ball in the Wall」



北京事務所

広州で日本の観光や文化をテーマにしたイベントが開催されました

6月21日から24日まで、広東省広州市のショッピングモールにて「正佳広場・日本旅游風情週（広州 JAPAN フェア）」が開催されました。同イベントは日中平和友好条約締結40周年を記念して、広州日本商工会などによって催されたものです。14の自治体がブースを設けて観光PRをしたほか、食品会社やホテルなど合計29団体が出展し、クレア北京事務所の職員も福岡県のPRを支援しました。

期間中は伝統舞踊や太鼓のパフォーマンス、和服の試着体験なども行われ、若い女性や家族連れを中心に多くの買い物客が日本の観光や食、文化に触れて楽しんでいました。

来場者の中には日本への旅行経験がある人も多くいましたが、東京や大阪などのゴールデンルートに集中しており、各自治体のブースでは「広州からはどのように行けばいいか」、「この季節に行くならどこがおすすですか」など具体的な質問も多く、日本の地方への観光に高い関心があると感じました。今後広州から日本の地方への観光客が増えることが期待されます。

※出展自治体：北海道、青森県、東北（宮城県、秋田県、山形県）、福島県、新潟県、兵庫県、和歌山県、徳島県、高知県、福岡県、熊本県、沖縄県



ソウル事務所

2018年度第1回クレアソウルセミナーを開催

2018年6月15日（金）、ソウル特別市にあるソウルグローバルセンターを会場に、2018年度第1回目のセミナーを開催しました。

本セミナーは、韓国に駐在する地方自治体職員などを対象として、韓国の市場動向や地方行政などに関する講義や視察を年4回程度行っています。今回は、4月に駐在員として初めて韓国に赴任した職員が多いことから、韓国での「生活」と「経済活動」をテーマに外部から講師を招き、韓国生活に役立つ情報、在韓日本人としての基本的な知識と危機管理、日韓間の取引を行っている事業者からの専門的アドバイス、韓国市場の現況など、駐在員として業務と生活に必要な知識を得られるような内容で実施し、14の自治体から20名を超える参加者を得ることができました。またこのセミナーは、普段接点がない他自治体の職員と意見交換をしながら活発な交流をするよい機会ともなっています。第2回目以降は地方行政の現地視察など、このセミナーでしか体験できない内容を検討しています。

このような取り組みを通じて、韓国に駐在する地方自治体職員などの韓国への理解を深めるとともに、少しでも役立つ情報や機会を提供していくことができるよう努めていきます。



日韓間の取引について講義を行う講師



参加者・講師による質疑応答



ニューヨーク事務所

夏の全米知事会議に鳥取県知事が参加

7月19日から21日まで、ニューメキシコ州サンタフェで夏の全米知事会議が開催されました。今回の会議には、全米知事会からの招へいを受け、日本の全国知事会から平井伸治鳥取県知事が出席。日米の投資や人材育成に関わるセッションに参加されました。

両知事会は、今年8月に東京で日米知事フォーラムの開催を予定しており、全米知事会議の期間中、平井知事は全米知事会長のサンドバル・ネバダ州知事、ベビン・ケンタッキー州知事らと会談し、同フォーラムへの参加と協力を改めて要請しました。



サンドバル・ネバダ州知事（左）と平井知事（右）

全米カウンティ協議会の年次総会が開催

7月13日から16日まで、テネシー州ナッシュビルにて全米カウンティ協議会の年次総会が開催されました。各カウンティにおいて政策決定に関わる理事会の理事などが出席し、農業や福祉といった分野の行政課題についての意見交換や、先進事例に対する表彰、2010年に洪水被害を受けたナッシュビルの復興状況の視察などが行われました。

当事務所は本総会において、クレアおよび事務所の活動PRやカウンティ関係者とのネットワーキングを目的としたレセプション「Japan Night」を実施。各カウンティの理事や職員など大勢の来場者が会場を訪れました。



総会の様子



シンガポール事務所

タイの地域課題解決に向けて日本の先進事例を紹介！ — 日本・タイ地方行政ジョイントセミナー —

クレアシンガポール事務所は7月5日・6日の2日間、タイ内務省自治振興局および日本国総務省との共催で、タイの地方自治体関係者約300人を対象に「日本・タイ地方行政ジョイントセミナー」を開催しました。

タイの地方自治体が直面している「地方の総合計画策定段階における住民参画」「家庭におけるゴミの削減」「小学校における社会規範教育」の3つの地域課題をテーマに、神奈川県小田原市、大分県大分市、バンコク日本人学校から講師を招へいし、日本の先進事例を発表いただきました。

いずれの参加者も熱心に発表を聞いており、質疑応答では予定時間を超えるほど多くの質問や意見が寄せられました。

このほかにもタイの講師によるパネルディスカッションや、日本の講師と参加者によるワークショップも併せて実施し、両国の経験・知識を幅広く交換することが出来ました。

発表の合間や休憩時間などセミナー全体を通じて日本の講師とタイの講師・参加者との交流も盛んに行われており、今回のセミナーがタイの地域課題解決の一助となることはもとより、今後の日本・タイの地方自治体間交流につながっていくことが期待されます。



パリ事務所

京都市とパリ市が友情盟約60周年記念行事を実施

6月19日、京都市とパリ市の友情盟約締結から60周年を迎えたことを記念し、パリ市庁舎において記念式典が開催されました。式典に先立ち、同日午前には京都市の代表団がパリ市のイダルゴ市長を表敬訪問しました。両市の友好関係の一層の深化や環境分野、持続可能な都市づくりなど、共通課題の取組に向けた政策協定に関する共同宣言に合意し、両市長および寺田京都市会議長が調印しました。

同日夜のパリ市庁舎における記念式典では、門川市長、寺田市会議長およびパリ市のクルグマン副市長が挨拶し、60年に渡って紡がれた深い友情に感謝するとともに、共同宣言に象徴されるように未来に向けて今後より一層深交流を深めていく旨が述べられました。

引き続きコシノジュンコ氏と観世流能楽師の分林道治氏によるファッションと能を組み合わせたショー「能とファッション」が行われ、伝統と現代に息づく日本文化の魅力が惜しみなく披露されました。またレセプションにおいては北野天満宮太鼓会による太鼓の演奏があり、力強い太鼓が来場者を魅了していました。

そのほか周年関連事業として、京都・パリ商工会議所友好協定締結30周年の記念事業として京都市が共催する「京都知恵ビジネスメッセ in PARIS」や京都とパリの伝統産業の職人やアーティストが交流し世界での市場開拓を目指す「京ものアート市場開拓支援事業」も実施されるなど、両市の多岐に渡る交流が展開されています。



記念式典の様子（左からパリ市・クルグマン副市長、京都市・門川市長、京都市会・寺田議長）
コシノジュンコ氏プロデュースによるショー「能とファッション」



経済交流課

第2回海外経済セミナー「食×インバウンド」を開催します！

2018年度第2回海外経済セミナーを開催します。

今年度2回目のセミナーは、「食×インバウンド」をテーマに、食を活用したインバウンド対策の取り組みを行っている企業、自治体の事例の紹介をします。

奮ってご参加ください！

日時：2018年9月28日（金）13:00~16:40（予定）
場所：大阪駅前第3ビル17階 TOG 貸会議室1号・2号室
（〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目1番3）
対象者：自治体、DMO・観光協会含む関連団体等職員
（定員80名程度）
申込方法：HPの申込フォームよりお申し込みください。
（<http://economy.clair.or.jp/activity/seminar/>）

※講演内容などについて、詳しくはHPをご覧ください。

■お問い合わせ 交流支援部 経済交流課

Tel : 03-5213-1726 Mail : keishin@clair.or.jp



2018年度第1回海外経済セミナーの様子



講演者の株式会社南部美人代表取締役 久慈浩介

多文化共生課

多文化共生のまちづくり促進事業（助成金）への応募受付中です！！

グローバル化が進展し、日本に居住する外国人住民が定住傾向にある中で、文化的背景を異にする人々が共生・協働する社会の構築を推進するために、地方公共団体、地域国際化協会および NPO 法人などが行う多文化共生施策に対する助成金の応募を受け付けています。

- ・対象：都道府県、市区町村、地域国際化協会、NPO 法人等（地方公共団体、地域国際化協会と連携して事業を実施するものに限る）
- ・助成金額：都道府県、指定都市…上限 400 万円
市区町村（指定都市以外）、地域国際化協会、NPO 等…上限 300 万円
複数団体の共同事業…上限 400 万円

・応募期限：9月28日（金）郵送必着

※詳しくは HP をご覧ください。

http://www.clair.or.jp/j/multiculture/kokusai/page_8.html

■お問い合わせ先 多文化共生課

Tel : 03-5213-1725 Mail : tabunka@clair.or.jp

JET プログラム事業部

都道府県別サポート研修会にクリアから講師を派遣！

クリアでは、各都道府県で開かれる研修会への講師派遣を行っています。今年度は主に5月から7月にかけて、全国12か所でクリア職員が講義を行いました。講義内容としては、JET プログラム事業の概要、中途退職と予防対策、JET 参加者の活用、担当者向けのリソース、異文化コミュニケーション、実践的な問題解決の6種類を提供しており、そのうち2種類を選択してもらい、各団体の希望に即した講義を提供しています。

特に実践的な問題解決では、JET 参加者が仕事を進める上で実際に起こり得る問題を題材にしたグループディスカッション形式で講義を進め、参加者間で積極的な意見交換が行われました。今年度は、「仕事量と勤務態度」、「引継ぎ」の2点をテーマに講義を行い、当協会のプログラム・コーディネーターの経験を踏まえたアドバイスも提供しました。参加者からは、「他団体の意見を聞く機会は有意義だった」、「JET 参加者が少しでも働きやすい環境を作ってあげたいと改めて思った」といった声が多く聞かれました。来年度も研修会への講師派遣事業を是非ご活用ください。



2018.5.31 福岡県における「JET 参加者の活用」説明の様子



2018.6.5 長崎県におけるグループディスカッションの様子

市民国際プラザ

第21回自治体と NGO/NPO の連携推進セミナー開催しました！

8月3日、第21回自治体と NGO/NPO の連携推進セミナー「外国人の多様性を活かし、活躍できる地域社会を目指して～外国人集住都市・地域の成果や課題から学ぶ～」を開催しました。外国人集住都市議会議員都市であり日本に在住する外国人支援の先達である浜松市、豊橋市。定住化に伴う外国人住民の介護分野などでの人財としての育成にいち早く取り組まれてこられた（一社）グローバル人材サポート浜松、住民としてのニーズ把握と対応が必要との考えから外国人比率が低い時点から対応をしている鹿沼市、外国人比率の高い越前にある若手経済人が集う武生青年会議所からご登壇をいただきました。参加者については、例年に増して自治体、国際交流協会、NGO・NPO、研究者、企業、学生などと幅広く集まり、本テーマへの関心の高さが伺えました。

登壇者によるパネルディスカッションでは、多文化共生推進の取り組みとして共通しているのは外国人が主体的に地域で活躍できる「場の創出」であり、そのために必要な4つのバリア（物理的、制度的、文化・情動的、意識上）を超える取り組みについて、参加者からの事例紹介なども含めつつ、活発に議論がされました。最後には持続可能で誰も取り残さない、包摂的な地域社会づくりに向けて「共に活動すること」の重要性や、各セクター・アクターを「つなぐ役割」の必要性が再確認され閉会となりました。

当日のセミナーの様子は、HP にも掲載いたしますので是非ご覧ください。

市民国際プラザ HP :

<http://www.plaza-clair.jp/>



基調講演の様子



パネルディスカッション／参加者からの発言の様子